（1）　明治20年創刊　第37681号（第3種郵便物認可）　（日刊）

上毛新聞

発行所（〒371－8666）前橋市古市町1－50－21　上毛新聞社
電話 市外局番(027)
(編集)251－9933 (広告)254－9914
(販売)251－3131 (事業)251－6555
(印刷)251－9955 (出版)254－9966
(ビル)254－9933 (地方)254－9966
(総務)251－5977 (総合)251－9911

© 上毛新聞社 2000年

小中学校の若手教諭

教員に欠けている経営センスを養おうと、県教委が新年度から、小・中学校の教員を1年間にわたって民間の企業や社会福祉施設、社会教育施設などに派遣する長期社会体験研修制度の導入を検討していることが、25日に開かれた県議会2月定例会一般質問で明らかになった。教職経験5年以上か30歳以上の比較的若い教員を対象に、県内の各教育事務所を単位に年間5人程度の派遣を計画。県教委は閉鎖的な教育界に風穴があき、教員の資質向上につながると期待している。

1年間の社会研修

民間企業や福祉施設 経営センス養う

新年度から派遣を検討

県教委

関根正喜教育長が秋山一男氏（自民）の質問に答えた。

教員が民間企業などの仕事やボランティア活動などを体験する社会体験研修はこれまでも、教職一年目の初任者研修で二日間、同十年目の経験者研修で三日間実施。一九九七年度からは、県総合教育センターの長期研修員制度も八日間取り入れてきた。

学校と全く異なる勤務環境で社会の幅広いメンバーと接触し、経営センスや管理技術を習得することなどに、人間として視野が広がって教育活動にも好影響が期待できるとみたのだ。

しかし、短期間の研修では本来の目的を達成できないとの指摘もあり、県教委は一年間の長期研修の導入を検討している。

教職経験5年以上か30歳以上の比較的若い教員を対象に、県内の各教育事務所を単位に年間5人程度の派遣を計画。県教委は閉鎖的な教育界に風穴があき、教員の資質向上につながると期待している。

県教委は現在、派遣して生徒研修の一日間、同十年目の経験者研修で三日間実施。

教員が民間企業などの仕事やボランティア活動などを体験する社会体験研修はこれまでも、教職一年目の初任者研修で二日間、同十年目の経験者研修で三日間実施。一九九七年度からは、県総合教育センターの長期研修員制度も八日間取り入れてきた。

学校と全く異なる勤務環境で社会の幅広いメンバーと接触し、経営センスや管理技術を習得することなどに、人間として視野が広がって教育活動にも好影響が期待できるとみたのだ。

しかし、短期間の研修では本来の目的を達成できないとの指摘もあり、県教委は一年間の長期研修の導入を検討